

- ・「前年」は全員記入必須
- ・前年の収入と支出を記入
- ・収入に記載した額は証明書類が必要
(奨学金案内26～29ページ参照)

【用紙②】収入計算書

前年

前年用 (表)

収入計算書[前年 (2022 年 1 月～ 12 月) 用]

私は、日本学生支援機構の奨学金を申し込むにあたり、収入に関する状況は以下のとおりであることを報告します。また、この収入計算書に基づき奨学金の申込み（「スカラネット」への入力）を行います。

記入例)

○学校名 東京工業 大学 〇〇学院 研究科

○課程 (該当の数字に○) :

1. 修士・博士前期課程
2. 一貫制博士
3. 博士後期課程
4. 法科大学院
5. 専門職大学院課程 (法科大学院を除く)
6. 博士医・歯・薬 (4年制)・獣医学課程

該当の数字
に○

○申込者氏名 東工 大二郎

○学籍番号 申請時点の学籍番号

記載した金額についてそれぞれ証明書類が必要です (奨学金案内26～29ページ参照)

前年 (2022 年 1 月～ 12 月) の収入額 【証明書類必要】		
	収入項目	収入額 (A)
定職 (○)	定職 (本人)	(年額) 0 万円
	定職 (配偶者) [該当者のみ]	(年額) 0 万円
アルバイト (○)	アルバイト 1	(年額) 60 万円
	アルバイト 2	(年額) 0 万円
	アルバイト 3	(年額) 0 万円
	父母等からの給付額 (★)	(年額) 101 万円
	奨学金	(年額) 54 万円
	その他の収入 (利子・配当・不動産 ・年金等の公的手当て・預貯金の取崩等)	(年額) 0 万円
ア	収入額合計	(年額) 215 万円

【記入時の注意事項】

○複数あるために欄が不足する場合は、合計額を記入 (アルバイトは 1・2 に記入後、3 に残りをまとめて記入)。ただし、証明書類は全て提出してください。

★計上する場合、前年用裏面に月別内訳を可能な限り記入してください。また、父母等給付者の自署が必要です。

【重要】

収入額合計は、0 万円とならないよう記入してください。

- ・この収入計算書に記入した内容に基づき、前年と本年見込 (前年に対して変動が見込まれる場合に限る) の収入金額をスカラネットに入力してください。
- ・必要となる証明書類は裏面に添付してください。

[裏面につづく]

「父母等から払ってもらっている授業料・家賃・光熱費」も「父母等からの仕送り」も全て含めて「父母等からの給付額」としてカウントします。自宅通学で父母等に払ってもらっている場合は世帯全体の経費から一人分の生活費を給付額と見なします (詳しくは奨学金案内28ページ参照)。証明としては、裏面「父母からの給付額について」に給付者である父母等の自署付きでこの欄に記載した金額を記入してください。(裏面は「年」が合っているか注意！)

証明書類貼付欄

<全員必須>

奨学金案内26～29ページを参考に「前年オモテ」に書いた1～12月の収入額の証明書類を上部2点（1点でも可）ホチキス留めしてください。

例)

- ・アルバイト…源泉徴収票または給与明細の写し、給与支払証明書等
- ・奨学金の証明書…受給証明書や採用通知など、奨学金の金額・期間がわかるもの（学士課程のJASSO給付奨学金の場合、各期間の金額がわかるようスカラネットパーソナルのコピーを証明書類として提出してください）
- ・父母等からの給付がある場合
…下記の欄を記入の上、**父母等に自署をもらうこと。**

※その他、項目ごとの詳しい証明書類の例は奨学金案内27・28ページを参照

※証明書類からさらに推算の必要がある場合は余白に記入してください。

アルバイトの収入年額に変動がある場合この余白に次の計算式を記入すること。
(計算式) 既獲得収入÷収入のあった月数×12＝収入年額

★父母等からの給付額について

下記の者が日本学生支援機構の奨学金を申し込むにあたり、申込者本人への給付額については、以下のとおりであることに相違ありません。

○申込者氏名 東工 大二郎

【注意】申請者本人の自署ではなく、
父母等が自署。

○給付者氏名【自署】

東工 一郎

○申込者との関係（続柄） 父

[千円単位：合計欄のみ1万円未満切捨て]

(2022年)

1月	75	千円	8月	85	千円
2月	85		9月	85	
3月	85		10月	85	
4月	85		11月	85	
5月	85		12月	85	
6月	85		小計	101	万円
7月	85				

【注意】

記入金額の単位が
各月は「千円」
小計は「万円」
であることに注意！
(例年書き間違いが多く見られます)

[月別に記入できない場合は、年額のみを合計欄に記入してください。]

本年

本年見込用(表)

変動ある場合のみ

「前年」から収入の変動がある場合のみ内訳金額を記入。

収入の若干のゆらぎについては「変動なし」と見なし、「本年見込」の方は「変動はありません」にマルをして提出してください。
別の勤務先が変わったり、アルバイトの数が変更になった場合は、「本年見込」も記入し、証明書類をつけて提出してください。

収入計算書〔本年見込（2023年1月～12月）用〕

私は、日本学生支援機構の奨学金を申し込むにあたり、収入に関する状況は以下のとおりであることを報告します。また、この収入計算書に基づき奨学金の申込み（「スカラネット」への入力）を行います。

【収入の状況】（以下の該当する方に、「○」を付けてください。）

変動無しの場合はここにマルをつけるだけでOK
（この紙の提出自体は必要）

☐	本年見込の収入については、前年の収入金額に対して、変動はありません。
☒	本年見込の収入については、前年の収入金額に対して、変動しますので、以下のとおり報告します。

このページは記入不要。

両ページの各項目を全て記入（前年と変動のない同じ項目も同じ金額を記入）。

〔各項目1万円未満切り捨て〕

本年(2023年1月～12月)の収入見込額 【証明書類必要】		
	収入項目	収入額 (B)
定職 (◎)	定職 (本人)	(年額) 0 万円
	定職 (配偶者) [該当者のみ]	(年額) 0 万円
アルバイト (◎)	アルバイト 1	(年額) 12 万円
	アルバイト 2	(年額) 0 万円
	アルバイト 3	(年額) 0 万円
	父母等からの給付額 (★)	(年額) 120 万円
	奨学金 (申込中の奨学金は除く)	(年額) 54 万円
	その他の収入(利子・配当・不動産 ・年金等の公的手当て・預貯金の取崩等)	(年額) 0 万円
イ	収入見込額 合計	(年額) 186 万円

収入の若干のゆらぎについては変動に含みません。
変動したとは、別の勤務先が変わったり、アルバイトの数が変更になった場合を指します。

【記入時の注意事項】

◎複数あるために欄が不足する場合は、合計額を記入（アルバイトは1・2に記入後、3に残りをまとめて記入）。ただし、証明書類は全て提出してください。

★計上する場合、本年見込用裏面に月別内訳を可能な限り記入してください。また、父母等給付者の自署が必要です。

【重要】

収入額合計は、0万円とならないよう記入してください。



本年収入見込額を「0円」とすると、前年の収入額合計で審査されます。

変動ありの場合は裏面に
証明書を貼り付ける
(裏面へ)

・必要となる証明書類は裏面に添付してください。

〔裏面につづく〕

本年見込の収入について、前年と変動しない場合、このページの記入は必要ありません。

本年見込用（裏）

証明書類貼付欄

「本年」分は、収入見込が「前年」から変動する場合のみ記載&証明書類の貼付が必要です。

※項目ごとの証明書類は奨学金案内27～29ページを参照

※証明書類は上部2点（1点でも可）をホチキス留め

・父母等からの給付額に変動がある場合

…下記の欄を記入の上、**父母等に自署をもらうこと。**

・アルバイトの収入年額に変動がある場合

…**本ページ**の中段の余白に次の計算式により記入すること。

既獲得収入÷収入のあった月数×12＝収入年額

例1) 1月～9月の間に18万円のアルバイト代の振込があり、
12月までに同様の収入が見込まれる場合

18万円÷9ヵ月×12＝24万円

例2) 2月から始めたアルバイトで、3月～9月に14万円のアルバイト代の振込があり、12月まで同額のアルバイト代の振込が見込まれる場合

14万円÷7ヵ月×9ヵ月（3月振込分～12月振込分）＝18万円

※あくまで収入のあった月の金額をもとに計算すること

★父母等からの給付額について

下記の者が日本学生支援機構の奨学金を申し込むにあたり、申込者本人への給付額については、以下のとおりであることに相違ありません。

○申込者氏名 東工 大二郎

○給付者氏名【自署】 東工 一郎 ○申込者との関係（続柄） 父

**【注意】 申請者本人の自署ではない。
父母等が自署する。**

【千円単位：合計欄のみ1万円未満切捨て】

1月	60	千円	8月	60	千円
2月	60		9月	60	
3月	60		10月	300	
4月	300		11月	60	
5月	60		12月	60	
6月	60		合計	120	万円
7月	60				

【注意】

記入金額の単位が
各月は「千円」
小計は「万円」
であることに注意！
（例年書き間違いが多く見られます）

【月別に記入できない場合は、年額のみを合計欄に記入してください。】